

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
①	たげさん 多気山（多気城跡）	未指定	山裾で大谷下部層の露頭が観察できるこの山は、大谷石の産地の西側に位置し、この地域を城山地区と呼ぶのは、宇都宮氏が一時この山を城として使用していたことに由来する。
②	きがんぐん おとめやま 大谷の奇岩群（御止山）	国名勝	姿川沿いに連続して露出する大谷石の高い崖は、松や蕨などの植物の緑と岩肌の灰白色の織りなすコントラストが見る人を魅了する。
③	大谷の奇岩群（越路岩）	国名勝	大谷の奇岩群の北端に位置する越路岩は、春先の水田に水をはった時期に、水面に「逆さ越路岩」を写し出し、幻想的な情景を楽しむことができる。
④	てんぐ 奇岩「天狗の投げ石」	未指定	天狗が投げた乗せたという伝説が残っており、まるで本当に怪力を使って天狗が置いたように、絶妙なバランスで崖の上に乗る不思議な大谷石である。
⑤	おおやじどうけつ 大谷寺洞穴遺跡	未指定	1965（昭和 40）年に大谷磨崖仏防災工事に伴い発掘調査が行われ、洞窟内より、縄文時代草創期の土器、石器や縄文時代の人骨が発見されている。
⑥	ながおかひやくあな 長岡百穴古墳	県指定	長岡百穴古墳は、大谷層上層に相当する長岡層に掘り込まれた 52 基からなる古墳時代の横穴墓である。
⑦	おおやまがいぶつ 大谷磨崖仏	特別史跡・重要文化財	千手観音菩薩立像・釈迦三尊像・薬師三尊像・阿弥陀三尊像の 10 躰が、岩壁面に彫られ、その表面に粘土を着せた、石心塑造の珍しいものである。
⑧	ホテル山（トウヤ採石場）	未指定	F.L. ライト設計の旧帝国ホテルやカトリック松が峰教会に用いられた石材を切り出した採石場である。
⑨	カネホン採石場 （高橋佑知商店）	未指定	現在稼働中の大谷石の露天採石場で、採石場に隣接して石材加工所や石材屑の堆積場、山主の住居兼事務所があり、採掘業に一連の流れを見ることができる。
⑩	カネイリヤマ採石場跡地 （大谷資料館）	未指定	大谷資料館の地下採掘場跡は、1919（大正 8）年から大谷石を掘り出してできた約 2 万㎡の巨大な地下空間で、現在は資料館として展示公開されている。Cool Japan Award2017 を受賞。
⑪	大谷石掘削道具一式	未指定	大谷資料館には、大谷石掘削の際に使用されたツルハンシヤハンマーなどの道具が展示されている。
⑫	きどうあと 軌道跡	未指定	大谷石輸送のため、明治 29 年に宇都宮軌道会社が創設され、その後大正 4 年に軽便鉄道が敷設され貨物輸送が強化された。廃線後は、一部が歩道として整備され散策することができる。
⑬	東武鉄道 南宇都宮駅舎	未指定	大谷石を用いた駅舎で、1932 年の開業当時の原形をとどめている。外壁の石張りは、腰壁より下が横方向、上部が縦方向という珍しいものである。
⑭	渡邊家住宅	市認定	渡邊家の屋敷内には、主屋、大谷石造りの石蔵 2 棟、表門、納屋があり、かつて名主を務めた民家の屋敷構えを今に残す。西石蔵内に記される墨書から、1769（明和 6）年以前のもものと推測される。
⑮	びょうぶいわ 屏風岩石材	県指定	屏風岩石材の大谷石造りの石蔵は、西蔵が明治 41 年の竣工、東蔵が明治 45 年の上棟で、居住用の西蔵（座敷蔵）は本格的な洋風意匠を採用した曲線や繊細な装飾を用い、倉庫（穀蔵）として建設された東蔵は、硬く力強い表現が目立つ。
⑯	大久保石材店	未指定	自然の大谷石を削り貫いて、母屋の離れとして屋敷の入り口に造られた部屋。大谷地区内でも唯一のもの。

⑰	旧大谷公会堂	国登録文化財	大谷石造りの旧大谷公会堂は、大正末期から昭和初期にかけて旧城山村の公会堂として建築され、現在は市の倉庫となっている。正面の4本の付け柱が特徴的で、柱には幾何学的な文様が彫り込まれている。
⑱	山の神祭り	未指定 (民俗)	大谷石の採石場は「ヤマ」とよばれ、採石場毎に山の神が祀られている。今でも、作業安全などを祈願するための山ノ神祭りが1月と10月に執り行われる。
⑲	おおやまあふり 大山阿夫利神社	未指定	明治以降に地元石材採掘業者によって祀られた。主祭神は山の神として祀られる ^{おおやまつみのみこと} 大山祇命で、大谷石採掘の際の安全を祈願して祀られた。例祭は年1回で、10月に地元採掘業者により執り行われている。
⑳	二荒山神社の石垣	未指定	江戸時代に神社の石垣を組む際に大谷石が使用され、現在もその石垣を見ることができる。
㉑	カトリック松が峰教会	国登録文化財	設計者のマックス・ヒンデルは故郷のグロスミュンスター大寺院を思いながら、この教会の設計を行った。我が国では、数少ない双塔を持ち、大谷石外壁にロマネスク様式の装飾が施されている。
㉒	宇都宮聖ヨハネ教会聖堂	市指定	1933(昭和8)年に竣工された教会堂で、尖りアーチやバッドレスが用いられたゴシック様式の教会で、大谷石を外壁全体に用いている。
㉓	宇都宮大学庭園	国登録文化財 (名勝地)	宇都宮大学の前身である宇都宮高等農林学校の開校に併せて作庭されたもので、フランス式庭園に倣った庭園で、園路や歌壇等に大谷石が使われている。
㉔	栃木県中央公園の 旧商工会議所遺構	未指定	昭和3(1928)年に建てられた大谷石貼りの商工会議所は、ライトの影響も窺われる斬新な意匠で、昭和54(1979)年に解体され、一部が栃木県中央公園内に移築・復元されている。
㉕	星が丘の坂道	未指定	屋敷を囲む高い大谷石塀と丸みを帯びた大谷石が敷かれた坂道が約20mにわたり一体的に見ることができる。
㉖	旧篠原家住宅	国重要文化財・市指定	篠原家は、昭和戦前まで醤油醸造業・肥料商を営んでおり、宇都宮で有力な商家の一つで、主屋は1895(明治28)年に建てられ、このほかに大谷石造りの石蔵が3棟あり、そのうち、文庫蔵の1棟は1851(嘉永4)年の建築である。
㉗	上野本家住宅	市認定	上野本家は、菜種油を精油する商店として江戸時代後期に創業し、1833(天保4)年に日光街道沿いに移転した老舗である。現存する建物5棟の中に土蔵の外壁に大谷石を張り付けた「辰巳蔵」と大谷石積の「穀蔵」がある。
㉘	小野口家住宅	国登録文化財	小野口家は、江戸時代より名主を務めた旧家で「前の蔵」「裏の蔵」「旧酒蔵」「長屋門」「堆肥舎」「旧乾燥小屋」の大谷石造りの石蔵が6棟並び、典型的な豪農の屋敷構えを残している。
㉙	あしぬま 芦沼集落	未指定	芦沼集落は、18軒の集落で、道路の両脇に大谷造りの石蔵と石塀が一体化された独特な街並みを呈する。
㉚	うわだ 上田集落	未指定	上田集落は、40数軒の集落で、各戸2棟以上の大谷石造りの石蔵を有し、道路沿いの水路に沿って、大谷石塀が数百メートル続いている。
㉛	にしね 西根集落	未指定	西根集落は、現在、20戸程度の民家が集まり、集落内を貫く道の両側には大谷石造りの民家が連なる。石造りは土蔵、納屋、石塀などのほか、主屋も石造りの家もある。
㉜	たていわ 立岩神社	未指定	元々は星宮神社と称され、1912(大正元)年に立岩神社に改称された。本殿の後ろに巨大な大谷石の露頭を見ることができる。

③③	いわはら 岩原神社	未指定	本殿の後ろの巨大な大谷石の岩はご神体で「ダルマ岩」と呼ばれる奇岩である。鳥居や祠も大谷石で造られている。
③④	さだつな きんつな 宇都宮貞綱・公綱の供養塔	未指定	正和 3 (1314) 年に宇都宮貞綱が開基した興禅寺 <small>こうぜんじ</small> の境内に、貞綱と息子の公綱の供養塔と伝えられる大谷石製の五輪塔がある。
③⑤	無事カエル	未指定 (伝統工芸品)	大谷石を加工して作られたカエルを象った民芸品で、「無事にカエル」との意味が込められており、以前は大谷寺の門前で売られていた。
③⑥	あおげん 青源味噌店	未指定	寛永 2 (1625) 年創業、江戸時代は米・雑穀問屋で、明治期より味噌の製造を専業として行うようになる。文化 2 (1805) 年と伝わる文庫蔵と 1906 (明治 39) 年の大谷石の味噌蔵は現在も使用されている。
③⑦	ダイニング蔵おしゃらく	未指定	昭和 13 (1938) 年に公益質屋の蔵として建てられ、現在は、まちなか活性化事業によりレストランとして使用されている。
③⑧	南宇都宮石蔵倉庫群	未指定	昭和 28 (1953) 年に米の貯蔵庫として建てられ、内部が木造の洋風小屋組みと手掘りの大谷石のコントラストが見事で、現在は「カフェ」や「コミュニティースペース」等として使用されている。